

教育民生常任委員会

(平成26年12月11日)

○ 中川雅晶委員長

それでは、続きまして、教育委員会から報告を受けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

初めに、教育長から一言よろしくお願いいたします。

○ 田代教育長

引き続き、よろしくお願いいたします。

きょうの報告事項、全国学力・学習状況調査結果の報告ということになりますが、ちょうどきのうの新聞に、学力テストの公開に関する問題もいろいろ文部科学省等が出しているということもございます。そんなことの中で、私どもは、毎年、これがまとまったら、この時期にきちっと教育民生常任委員会に報告させていただくということで進めてきています。きょうがその報告の日ということになります。どうぞひとつよろしくお願いいたします。

○ 中川雅晶委員長

それでは、報告事項、先ほど教育長からありましたように、全国学力・学習状況調査結果の報告についてであります。まず初めに、全国学力・学習状況調査結果についての取り扱いについてお諮りをさせていただきます。

本件につきましては、学校別のデータをもとにした報告内容が一部ありますので、その学校別データに係る部分については秘密会としたいと思います。なお、秘密会においては、傍聴の方は退席をいただき、配付した資料についても回収をさせていただくこととなります。秘密会を開くことに賛成の方の挙手を求めます。

(賛成者挙手)

○ 中川雅晶委員長

賛成多数。よって、秘密会とすることに決定をいたしました。

まず、公開の部分についての説明をお願いいたします。

## ○ 吉田指導課長

おはようございます。指導課の吉田でございます。

今、委員の皆様方にお配りさせていただいています青の表紙のものでございますが、この冊子のほうから説明をさせていただきます。それとあわせて、その後に、今年度初めて作成をさせていただきました保護者向けのリーフレット、これについても触れさせていただきますのでよろしくお願いをいたします。

まず、青刷りの冊子につきましては、8月末に全国学力・学習状況調査の結果が手元に届きまして、その後、分析等をして、各議員の皆様方に配付をさせていただいたところです。これにつきましては、四日市のホームページのほうには全て掲載をさせていただいておりますし、教育委員会会議でも提示をし、説明をさせていただいているというところでございます。

それでは、1枚めくっていただきまして、1ページのところですが、結果のところでございます。結果につきましては以前にもお知らせをさせていただきましたが、平成26年度の現在の6年生と現在の中学3年生につきましてはの状況については、小学校では若干全国を下回っているものの、中学校の3年生段階では全国平均を上回っているというようなことで、一定の学力の保証はさせていただいているのではないかというふうに考えておるところでございます。

2ページから5ページまでのところにつきましては、小学校と中学校の国語、算数、中学校の場合は国語と数学でございますが、どういう問題に対して本市の子供たちが強み、弱みを発揮しているのかというところで表にまとめたものでございます。

続きまして、6ページ、7ページです。

6ページ、7ページにつきましては、今まで取り組んでおります今後の取り組みの重点というようなことで、これも今までの教育民生常任委員会の中でもご報告をさせていただいたことですが、それを取りまとめて前のほうに持ってこさせていただきました。特に、1番のところにおけます全市的な四つの取り組みの充実、こういうことを図るということ、それから、3のほうですが、家庭学習の充実、こういうところにさらに力を入れていきたいなというふうに思っております。

続いて、8ページから25ページまでですが、これは、全国学力・学習状況調査の学習状況の調査で子供たちの答えたもの、肯定的な意見、それから否定的な意見で正答率の違い

をクロスで表記したものでございます。その解説が8ページから9ページまで載せさせていただいているところですが、10ページ以降25ページまでは特徴的な項目について取り上げをさせていただきました。特徴的といいますのは、肯定的回答をする生徒のほうが否定的な回答をする生徒よりも正答率が高いような項目についてのピックアップをしたものでございます。

なお、今年度は小中学校とも74問の質問がありまして、そして、基本的な生活習慣、それからテレビゲーム、メール、インターネットの時間、学習時間、読書に関すること、家族との状況、家庭学習、学校生活、地域や社会との関係、関心事、それから規範意識、そして総合学習とか、書くこと、話し合うこと、それから国語科に関すること、算数、数学科に関することというようなことで内容が分かれておりまして、それら全てで74問という形になっております。小中学校とも、質問内容につきましてはほぼ同じでございます。

10ページのところを見ていただきますと、学習に対する関心・意欲・態度のところでございますが、例えば、質問1のところでの、昨年度までの授業で自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますかというようなことで、与えられていると思いますというようなことで肯定的に回答している子と、そうじゃないと思いますというふうに答えている子との正答率の差というのが、やっぱり意識の差が正答率にも出ているというようなことで見ていただければと思います。

11ページから12ページにかけては、国語科に関するような質問について取り出しました。

13ページから14ページまでは算数・数学でございます。

それから、15ページから16ページまでが自主学習、いわゆるおうちでどうしているかということですね、学習をどうしていますかというようなことです。特に16ページの質問15のところ、よくご質問いただくんですが、学習塾や家庭教師で勉強していますかという調査、質問項目があるんですが、ここにおいては、必ずしも学習塾等に通っていることにより正答率に大きな差が見られないというようなことがこのデータからは示されております。

それから、17ページが読書習慣でございます。

続いて、18ページ、19ページがテレビゲーム、それから携帯電話、スマートフォンの利用時間、ここにかかわってのことで、これにつきましては、この部分を取り出しまして、お手元のリーフレットを1枚あけていただきますと、リーフレットの右側のところに、このデータを保護者の方にもわかっていただけますようにピックアップして取り上げをさせ

ていただいたところでございます。

続いて、20ページからは基本的な生活習慣、それから人の役に立つ人間になりたいとか、そういうところの自尊感情、そういうものを調べたものでございます。

22ページは、特に心の問題というか、側面からの質問で、思いやり、有用感、自己肯定感というようなところで調査結果が出ています。

23ページから24ページは、おうちでの家人とのコミュニケーションの状況、それから地域社会への興味、関心、それから規範意識、こういうようなものでございます。

25ページ、最後のページでございますが、これはキャリア教育にかかわるようなところで、将来の夢や目標、それから、難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦しますかというような質問内容でございます。

26ページ、27ページは、学校に対する質問でありまして、ここも以前に比べると改善されてきていると思います。特に中学校の場合の改善が著しくて、27ページから28ページにかけて、その成果というか、全国に比べてどうかというところで、成果と考えられる項目をピックアップしましたし、最後の28ページの下のところの課題として認識している学校の割合というようなところでの項目も大分減ってまいりました。ただ、小学校については、もう少しそれを意識していただく必要があるのではないかなというふうに感じております。そのことが29ページ、授業改善、指導改善等が示されたものです。

そして、30ページ、31ページでございますが、この中で、これは先ほど6ページで今後の取り組みのところでも触れさせていただきましたが、二つの全市的な取り組みということで、四つの取り組みと、いわゆる幼保小中学校における指導体制の一体化というような、特に小中連携のことについてでございますが、このことについての状況を示させていただきます。

30ページの下の方の五角形のグラフなども、一番内側にあるのは平成24年度、23年度の取り組みの状況ですが、全国に比べると取り組み状況が非常に低かったのが、今、この数年間で、こちらの働きかけもさせていただきながら、非常に取り組みは進んできました。ただ、質的な向上がこれからの課題やというふうに捉えております。

31ページのところの学びの一体化、いわゆる連携のことにつきましては、四日市市は全国に比べると、早くから取り組ませていただいている関係上、非常に高い率で示されているところです。

あと、そのようなことから、32ページの一番上に児童生徒質問紙の学習時間というよう

なところ、それから、項目が幾つかありますが、下にほうにありますテレビ、ビデオ、携帯、スマートフォン、協同的な取り組みによる達成感なども、こういうところで取り組みをさせていただいて、課題としてピックアップをさせていただいたところです。

そして、34ページから37ページまでになってきますが、家庭学習に関するようなこととというようなことで、この部分につきましては、先ほどもお示ししましたリーフレットの最終ページに、家で自分の計画を立てて勉強していますかから始まって、土曜、日曜などの休みのときにどれぐらい学習をしていますかというようなところもピックアップしながら、リーフレットのほうに示させていただいたところがございます。

それから、ちょっと飛びますが、38ページ以降につきましては、今後の取り組み、先ほどの6ページのところで、さらに具体的に子供たちとの関係を高め、そして、家庭との連携を高めることによって、学力の向上に努めていくというようなことも示させていただきました。

最後に、45ページをごらんください。

この章につきましては、今回の分析の中で一番力をかけさせていただいたというか、新たにさせていただいたところなんですけど、今までのこの2年間ですが、平成25年、26年度の46、47、48、49ページなんですけれども、それぞれのどの単元が強くて弱いのかというところ、それから、48、49ページは算数と数学ですが、今の教科書のどの項目が強くて弱いのかというところも具体的に示させていただいて、このことをもとに、10月から11月にかけて、小学校のほうでは研修主任と現5年生担任などを中心にこのことを説明させていただいて、取り組みの強化をお願いさせていただきました。その際には、水沢小学校さんと常磐西小学校さんが取り組んでいる効果の実効性がある取り組みを、学校の職員から話をさせていただいたということです。中学校は国語と数学と理科の中心となる担当者呼びまして、研修会を進めさせていただいたということです。

それから、このリーフレットにつきましては、今少し触れさせていただきましたけれども、子供たちの学力や学習状況の取り組みについて、どういう結果になっていますよ、そして、1枚あけていただいたところで、保護者の皆様へということで、市としては、このような、例えば小1、中1の30人学級編成及び少人数教育の推進やら、小中学校が連携した教育の推進、それから学力向上に向けた四つの取り組み、コンピューターなどを使ったICT教育の充実、工夫をさせていただいている。その中で、この結果をまた見ていただきながら、ご家庭でも規則正しい生活リズムを身につけて、日々、やっぱり集中して反復

練習や復習、予習などに取り組む働きかけをご家庭でもご協力いただけませんかという呼びかけをさせていただきました。

以上、本当に長い時間、済みません。説明をさせていただきました。

○ 中川雅晶委員長

ありがとうございます。

それでは、ここでちょっと10分ほど休憩をとらせていただいて、再開後、公開の部分の質疑、それから引き続いてそれぞれの個別のご説明を伺いたいと思いますので、じゃ、15分再開とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

11:06 休憩

---

11:16 再開

○ 中川雅晶委員長

会議を再開させていただきます。

それでは、ただいまの公開の部分の報告があったものについて質疑を受けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○ 豊田政典委員

全体的には取り組みが以前に比べて充実してきたというのは感じました。その中で少しお聞きしたいんですが、例えば、29ページに教職員と児童生徒との意識の違いというのが出ていますよね。これは重要なところかと思うんですけど、29ページは二つ出ているんですけど、39ページから指導方法についてこんなことを指導しましたよというのが出ていますが、指導する側のデータね、意識として。このそれぞれについて、受ける側の児童生徒の意識調査、それがあったかどうか、そういうのはないんですか。

○ 吉田指導課長

委員のおっしゃるとおり、その項目についてはございません。

## ○ 豊田政典委員

そうすると、29ページに出してもらった2項目については両方の調査があったということ。それとも、ここだけ際立っていたので取り出したということなのか。

## ○ 吉田指導課長

ここは、特に全国的に、全国学力・学習状況調査の上位県と言われている県がございますが、ここの中で、県の教育委員会なども、この点が冒頭での目当て、狙い、そして最後の振り返り活動、ここを重点的に調べてほしいというようなこともありましたので、ここをピックアップさせていただいているところでございます。

## ○ 豊田政典委員

そうすると、39ページから教師側がこんなことを取り組みました、一生懸命やりましたというのも大事ですけれども、29ページにあるような意識の乖離というのはあるかもしれないので、そういうのも把握できたら、より中身が充実していくのかなというふうに感じたのと、あとは、全市的な傾向、幾つかはこのパンフレットに取り出してもらって、明らかな相関関係が——グラフのつくり方にもよりますが——ある項目がありますよね、ここに出してもらったやつ。ということは、生活習慣みたいなところに随分相関関係が見られると思うので、活用の仕方によると思うんですけれども、家庭学習、家庭生活についてね。説明をよく覚えていないんですが、これを配るにとどめるんですか。それとも、もう少し細かくやるんですか。

## ○ 吉田指導課長

このことにつきましては、教育委員会会議の中でも話題に取り上げていただきまして、これを単に配るだけではだめだなと。やっぱりきちっと子供たちに配る際にも、こういうことだよということで話をする、指導をする。そして、PTAの役員会議などで、こういうのを配らせていただいたので、ぜひ意識していただきたい、あるいは、学校づくり協力者会議や地域のコミュニティースクールのほうの委員の方々にもお知らせをして、こういう取り組みで今進めていますよということと、それから、これ以外に、中学校のほうはシラバスとって、教科の進行状況についての年度計画などのことについての手引があります。小学校のほうは学習の手引というのをもっと充実させてほしいということで、こちら

からも入れていますので、そういうものをあわせて作成するように指導しながら、今、その内容の充実を高めているというところでございます。

○ 中川雅晶委員長

よろしいですか。

○ 豊田政典委員

はい。

○ 中川雅晶委員長

ほか。

○ 石川勝彦委員

先日、議会における質問で、このリーフレットにある、携帯、スマートフォン、テレビゲーム、この辺のことについてお尋ねして、教育長のほうから答弁をいただいたんですが、今のお話ですと、配るだけにとどめるのではだめだと、それはわかります。子供たちに指導し、あるいはPTAに配っておると。それから学校づくり協力者会議とかコミュニティースクール等で進めておりますということで、果たして、これだけの内容は非常に重いんですよ。その程度でいいのかということと、私が議会でお尋ねした、特にスマートフォンが百科事典にかわるぐらい明解に、昨日もNHKの7時30分からのあれを見ていまして、つくづく感じたんですが、やっぱり聞くだけ、読むだけではだめだと、書かなくちゃだめだという、最終的にはまとめるという力が、理解力ができてなければ、書く力はないですよ。こういう状態で、大学生の話が中心だったんですが、このままでいったら、今の子供たち、一体どうなるやろうかと、非常に大きな心配があるんですよ。

取り上げるというわけにいかんでしょうけれども、もっともっとやっぱり、議会のときにも言いましたけれども、刈谷市の実態とか、あるいは、あの周辺みんな温度差が高まってきています。火山じゃないけれども、マグマがだんだんとふえてきておるということで、今、飛び火もしておる状況で、その辺も聞いております。恐らく一気に加速するんじゃないかと思うんですが、本市もやはりその辺のところを、縛りじゃなくて、親だけじゃなくて、地域社会にもというふうに書いてありますけれども、徹底的にこれは周知させていか

ないと、もう本屋さんも要らなくなるし、図書館も要らなくなりますよね。図書館も、先日、空調の整備をしていただくということですが、していただいても、なかなか図書館にも来てもらえない、本も読んでもらえないというようなことで、小中学校が調べる学習ということも全然してもらえない、本も読まない、このような状態が果たしていいのかなと思うと、たかがしれたこれだけのものですが、これは非常に重いんですよ。

だから、もっとこれを重く受けとめて、教育委員会から方向づけしていただくということと、条例化する、よそのまねせんでもいいですけども、ある程度将来の子供のために、我々の跡を継いでくる子供たちのために、やっぱりそれなりのことを、学力・学習状況、あるいは生活状況ということも含めて根本的に見直すことは、親から始めなくちゃならんかと思いますが、子供にも十分認識をしていただくということになるのかなというふうに思いますね。

それから、それこそいろいろ学校、自分の思いつきで近くへ行ったら、その学校へ寄らせていただいて、授業参観をさせていただくんですが、先生の指導力というか、指導法というのが、もう極端ですよ。昔は教育センターでブラッシュアップするということで、今は教育センターでなくて指導課のほうで、あるいはいろんな研修機関があると思うんですが、もう少し、子供たちが授業しておときの姿を見てみると、30人学級でも、40人学級、少ない学級でもそうですが、先生、一生懸命話しているつもりだろうけれども、子供たちは頭がふらふらして、先生の話の聞いているようには見えない。ベテランの先生ほど悪いですね。若い先生で、何となくやっぱり人間的に魅力があるというか、若さの魅力というか、そういうのはあるのかもしれませんが、子供はやっぱり単純ですから、先生の人間性というか、そういったことに特にかかっていると思うんですよ。特に小学校の低学年から高学年、男の子は5年生でも6年生でも幼いというか、おぼこいというか、そういうところがありますけれども、そういう点から考えると、女の先生の多い時代、授業が好きにならんと、先生が好きにならんといかんですけども、授業が好きになるということは、先生が好きだから、その人のその勉強を一生懸命するんですね。だから、それが家庭での学習にもつながっていくんですよ。学校がおもしろなかったら、家庭で勉強しませんよ。宿題があってもしませんよ。人ごとのように思っちゃうんですよ。

だから、その辺のところを考えると、いろんな角度からの報告書もすばらしいと思います。だけれども、何となくもう一つ、分析していただいた内容は立派だけれども、理想論的なことばかり並んでおって、もっとやっぱり踏み込んで、四日市の小中学校教育の充実

を先生から図っていただかないかんということと、さっきも言いましたけれども、人間性にかかっているのかなというふうに思いますので、それを無理に人間性をとって無理ですけれども、先生には指導力という魅力があるんですね。そこに味をつけていただくということはできないのかなと思うんですけども、教育の中では無理なんでしょうか。先生の教育の中では無理なんでしょうか。いかがですか。

## ○ 葛西教育監

まず、私もきのう「クローズアップ現代」、7時半から見えておりました。確かに、最後に講師の方が言われた、調べて、そして書く力、そこへいかないことには本当に自分の力にならないというふうな、それはもうまさしくそのとおりでなというようなことを思っております。

やはり今、私たち学校で子供たちに一まとまりの文章を何のためにどういう道筋で書くのかと、そういうふうなことについても力を入れているところです。これはまだ成果が一気に出てきておるといってわけではありませんけれども、このことはしっかりと、読書とともに書くというふうなことは力を入れさせていただいています。

それから、スマートフォン自体の取り組みについては、教育長が一般質問の場でお答えさせていただきましたように、これは青少年問題協議会、ここのところずっとこの問題については取り上げてきております。それで、また、年明けての会議の場でもスマートフォンの問題を取り上げさせていただいて、それこそそれぞれの団体が一致して取り組んでいくと。特に四日市市PTA連絡協議会については、これは私どももしっかり働きかけをさせていただきまして、学校とPTA連絡協議会と一緒にこの取り組みを進めていくという、そういうふうなことで、平成26年度の末から27年度にかけてしっかりやっていくというふうな、そういうふうなところで、こども未来部とも連携して話を進めているところです。

それから、子供がやはり授業が好きになる、先生が好きになる、これはやっぱり授業がおもしろいということが大事ということは、もうまさしくそのとおりで思っています。また、この後半で各学校の取り組み等についてご報告させていただきますけれども、子供たちの学力がぐっと伸びたところは、やっぱり授業を先生方がしっかり考えて、どうしたら教科の本質に迫って、おもしろい、子供が考えたいという、そういうふうな課題を出していく、それを一生懸命研修で取り組んだという、そういうふうな報告も校長から聞いて

おります。それは私たちが昔からやっぱり楽しい、物事を追求していくという、そういうふうな授業を大事にしていこうと言ってきたことと同じことだと考えております。ですから、そのところがまずあって、家庭で学習していくというふうな、そんなふうなことも、道筋としては全くそのとおりだというふうなことを思っております。

それから、最後の先生の指導力ですけれども、やはりこれは、教員は学校、他の教職員で磨かれる、それから、子供と接する中で、あるいは保護者と接する中で磨かれていくというのが、これはやっぱり一番大事なところかなというふうなことを思っております。そこで、指導力をつけていくというふうなことについては、その節々でそういうチェックをしていくことと、それからまた、違う職種の方からのお話というふうな、そういうふうなところもやっぱりポイント、ポイントで入れていかなきゃならないなというふうなこと、そんなふうなこともあわせてやっていかざるを得ないのかなというふうなことを思っております。

#### ○ 石川勝彦委員

今、総じて申し上げましたけれども、やっぱり学校間格差、点数とか学力とかいうんじゃないくて、学校間格差、それから先生間格差が目立ちます。これの是正をしていくためにはどうすればいいかというのは、教育委員会全体としてしっかり取り組んでいただかないかん。学校教育課として、指導課としてしっかり取り組んでいただかない。そして、教育支援課も含めて、総ぐるみで一生懸命になってやっていただかないかんということと、先ほど教育監が言われたんやけれども、やっぱりマンツーマン的な教育、そして、手取り足取りとまではいかんけれども、その辺のところまでやっていかんと、先生、好きになりませんよ。好きになってもらえませんよ。昔は55人、60人の教室やったんですよ。そんなんできなかった。もう上から命令なんですね。今は違います。先生、同じ目線でおりにきておるじゃないですか。せつかくここまで来たんだから、できないことないと思いますよ。

以上。

#### ○ 中川雅晶委員長

ほか、ございませんか。

#### ○ 豊田政典委員

あと具体的な取り組みで二つ聞くんですけれども、たまたま目についたのが、28ページの下赤字のところ、数学の習熟度授業の話が書いてありますよね。77%できていない。何年か前に、習熟度別学習、指導というのは、非常に重要かなと思って、全校展開するというときの記憶しかなかったんですけど、現状を知らなかったんですけど、今はもうほとんどできていないんですか。

## ○ 吉田指導課長

実際の数学の授業で習熟度が遅い子供たちだけ集めてのグループ活動にすることによって、果たして、例えば、そのグループだけになってくると、新たな、友達同士で教え合うとかいうことがなかなか難しい場面が多くて、どっちかという、混合型のグループのほうが学力というのは上がるという結果もあると思うんですけども、たしかあったと思うんですけども、こういう子供たちに対しては、結局、補充授業というか、補習をかけるというふうな形で、四日市の場合、今、多くが取り組んでいるというふうに思っております。

## ○ 豊田政典委員

そうすると、五、六年前、七、八年前から、結果を見ながらやり方を変えてきたというふうに理解しておけばいいんですか。

## ○ 吉田指導課長

やはり子供たちの実態に応じて、あるいは子供の規模にもよるんですが、特に数学科のほうは、四日市の場合というか、三泗地区の場合、非常に研究熱心に進めていまして、1ページのところにあります結果のところでも、唯一、平成25年度の活用のBのところ若干その年だけ全国平均を下回ったんですけども、それ以外は全て上回っています。これはなぜかという、私が、自分が中学生のときもそうなんですが、数学科の教員だけで集まって、いわゆる確認テストというんですけど、自主的な統一テストというのを作成して、それを定期的に毎年して、その状況によって、どこが強いかわいいかという強み弱みを分析しながら、系統的にずっとやっています。ですので、そういうようなこともサークル活動というか、研究協議会の活動を生かしながら、横の情報交換をしながら取り組みを進めているというふうに思っています。

○ 豊田政典委員

もう一つは、みえスタディ・チェックの話ですけど、聞くところによると、この学力テストの模擬試験のような取り組みをしている都道府県が多いと聞くんですけど、三重県、四日市もそれをやるということになると、何かと批判が多いとか、点数上げだけのためじゃないかというような批判もありますね。そんな受けとめ方でいいんですか。

○ 吉田指導課長

このみえスタディ・チェックの件は、ここには資料はございませんけれども、今年度、三重県の教育委員会が県民の学力向上のための一つの施策として打って出たという施策として、この辺は市町の教育長会の中でも大分議論がありまして、実は、例えば四日市の場合ですと、以前からC R Tの予算をいただきまして、基礎的な学力の部分で定期的にずっと全国規模の調査をしておりますので、これをしているのに、二重屋根になるようなみえスタディ・チェックをするということは過多にならへんかと。しかも、大体多くは、やっている都道府県としても、年に1回程度というようなことなので、学期に1回ごとやるというのは、子供たちにも、それから教職員の採点、それから集計、それを県の教育委員会に報告するというようなことになるのはちょっと荷重ではないかというようなことで、四日市としましては、協力はさせていただきますけれども、年1回程度にとどめていただきたいということで要望をさせていただいているところでございます。

○ 豊田政典委員

協力するという態度なんだなというのが、姿勢なんだなというのが、わかりました。

○ 中川雅晶委員長

どう捉えるかって、なかなか難しいですね。

ほか、ございますか。

○ 小川政人委員

たくさん分析してもらったんだけど、これ、平均点の話だけなもので、例えば点数の分布とか、そういうのというのはやっておるのかやっていないのか。

○ 吉田指導課長

これも、全国学力・学習状況調査を受けていただいたお子さんに個票が渡ります。A3大の個票でしたが、そこに全国の状況でヒストグラム、いわゆる委員がおっしゃられる度数分布の表がありまして、そこに自分の結果、設問ごとの状況と、それから自分の位置づけがわかるようになっておりますので、個別の資料が各自に渡るようになっておりますので、それを使わせていただいております。

○ 小川政人委員

聞いておるのは、そうじゃなくて、こうやって平均点を出してきておるで、僕らにもこうやって分布がわかる、平均点だけの見方じゃなくて、四日市の子供たちが、例えば80点から90点がどれぐらいの人たちがおってとか、10点とか20点ぐらいのところにはどれぐらいの人がおってというのも一つの指標の見方やろうと思うもので、そういうのは出していないのかと聞いている。

○ 吉田指導課長

済みません、聞き間違えてというか、理解不足で申しわけありません。

そういうものは今まで出しておりませんが、そういうことも工夫しながら、今後、改善に努めていきたいと思っています。

○ 小川政人委員

だから、全国平均学力テストになって、平均点の話をしておるだけの話で、そんなん、別段、平均点よりもっと違うことがあるやろうと思っておるんやけど、0点と100点と2人おったら50点やん、平均点な。60点と60点やったら平均点60点やし、そうやってがらっと平均点なんて変わる部分があるんやで、どこまであなた方が教えて、大勢の子はこの辺の程度まで知識があるんやという。それで、ない人たちはどういふのやというのも、それがどう覚えておるかという全体のあれと違うのかなと思うんやけど、そのこのところのそういう使い方もあるで、ただ単に平均点だけで全国より悪いとかええとかという話とは、またいろんな見方があると思うんやけど。以降、やってほしいなど。

○ 中川雅晶委員長

答弁ありますか。

○ 吉田指導課長

今、小川委員からご指摘いただいた部分、また考えさせていただいて、取り入れさせていただくような方向で考えさせていただきたいと思います。

○ 中川雅晶委員長

ほか、ございますか。

○ 樋口博己委員

先ほど豊田委員、石川委員から出ていましたこのリーフレット、これは保護者へどういうふうに伝えるのかという話で、吉田課長、ご答弁されてみえたんですけども、これは、せっかくつくっていただいて、何らかの形で出しつつあるというふうな答弁をされてみえたんですけども、家庭学習で、それぞれの家庭にさまざまな課題があって、家庭学習ができないという状況があると思うんですよね。それを個別に対応せいという話ではないんですけども、これをつくって、1年間を通して、翌年まではこのリーフレットというのはつくらないと思いますので、年間を通して授業参観であるとか、きちっと継続的にこういう状況をお伝えしながら、日常の家庭訪問であるとか、そういったところにもしっかりと活用していくべきだと思うんですけども、その辺の取り組みをちょっと改めて説明いただきたいと思います。

○ 吉田指導課長

今、樋口委員おっしゃられたとおりで、このリーフレットは、確かに市教育委員会としてこういう形でご協力をお願いしたいという呼びかけのものでありますので、この1月にも四日市市PTA連絡協議会のほうの懇談会がございまして、そこの中でも説明もさせていただきますし、引き続き、例えば三者懇談会とか、それから、当然、家庭訪問等ありますし、そういう中で、これは市全体のものですので、各学校によって若干傾向が違う場合がございます。それはやっぱり学校できちっと学校だよりなどで示していく、あるいはそういうことをホームページで出していくということが重要やと思っておりますし、また、そのよ

うに工夫してくださいということで、各学校のほうには協力依頼をさせていただいているところですので、そういうことを踏まえて、総合的に引き続きやっていきたいと思っております。

#### ○ 樋口博己委員

今、課長から、学校別にそれぞれ傾向なり何なりあるので、その辺は少し出していくというふうな表現をされたと思うんですけども、その辺のどこまで情報を提供していくというのは、学校長の判断で効果的と思われるものは示しながらしっかりと推進していくということでよろしいのでしょうか。

#### ○ 吉田指導課長

各学校の校長としては、当然、各学校の結果が自校に届きますので、それを見て、また、例年つくらせていただいていますこういうようなもの、市全体の状況も見比べたり、全国との見比べをしながら、ここはうちの強みだな、あるいはここは逆に弱いねというようなところがあれば、それをピックアップしながら、保護者の方や子供たちに伝えていくことは非常に大事なことやと思っておりますので、それは引き続き続けさせていただきたいと思っております。

#### ○ 川村高司副委員長

同じく携帯とかスマートフォンとかテレビゲームで、これは青少年問題協議会でやっていますよという、こども未来部、青少年育成室等々が指導してやられていますけど、一回傍聴に行きましたけど、構成メンバー等々で実際にSNSとか、インターネットを使ってみえる方がどれだけいらっしゃるのかという、そこは正直疑問ですし、一般質問で何名かの議員さんが質問されて、ちゃんとここでやっていますと言われてはいますが、そのときの議論なんて何にもないですよ、現実問題は。そこでやっているという枠をつくっているだけであって、内容は空っぽという現実がある中で、これは与えている大人、保護者に問題がある。もう持っている時点では遅いので、例えば幼稚園、保育園、もしくは赤ちゃん、もしくはそのもっと前のと考えていくと、こういう問題は社会教育課とか、そういったところが、本当に地域、社会の問題と認識するのであれば、社会の問題として対応していくべきじゃないかと思うんですけど、社会教育課というのは対象外でいいんですか

ね。

### ○ 寺村副教育長

前、川村副委員長にも傍聴にも来ていただいたんですけども、社会教育課のほうでは、今、市民文化部の公民館活動とか、そういった方面を中心というふうなことで、社会教育委員さんの会議の中でもご理解をいただいたというふうなところで、確かに、川村副委員長のご指摘の、これも社会教育、学校教育以外の部分というのは、広く言えば全て社会教育という部分もあるんですけども、青少年、スマートフォン云々と、こういったところは、今、現時点では、青少年の問題の部分、就学前からというものもあるかと思うんですけども、現実にはスマートフォンを持ち出すのは小学校も後半の部分になってからではないのかなというのは現実ではないかというふうに考えております。

以上です。

### ○ 川村高司副委員長

その辺、もうちょっと真剣にこの問題を、自分たちの範囲はここまでなのでという考え方はなしに、全体的にどうすべきか、他部署にまたがるのであれば、それを積極的に働きかけて、何とかしてあげようという対策をとっていただければと思います。

あと、全く細かい話ですけど、この資料、グラフというのは、縦軸、横軸というのは何かというのを書くべきなんですよね。米印のところに何か注釈文を書いていますけど、その辺、基本的な表記の仕方であるとか、そういったところも取り組む姿勢のあらわれのかなというふうに私なんかは見てしまいますので、挿絵ももうちょっと新しい挿絵にするとか、細かい問題ですけど、何か本当に今の問題を議論しているんだよという、本当に小言の意見で終わります。

以上です。

### ○ 中川雅晶委員長

さまざま意見は出てきたかと思うんですけども、数年ずっとやってきて、僕は、この調査の結果をどう分析して、これをどう活用していくかということが、いよいよ試されているのかなと思いますし、出されていた今後の課題であったりとか方向性であったりとか、大体この方向性やと思うんですけども、じゃ、具体的にどういうふうなということ

がこれから問われるのかなというふうに思いますので、例えば教員の授業力をどう向上させるのか、具体的にどう家庭学習の工夫とかをするのか、授業ノートの指導とかと書かれている中に、具体的にどうやって施策展開していけるのかということを考えていかなきゃいけないのかなと思いますし、先ほど小川委員からありましたように、平均値だけのことで、じゃ、それがどういうふうな分布になっているのかというのは極めて重要なことかなとも思いますし、この結果だけを捉えて、この点数だけを上げる方向に行くということは、これもまた本末転倒で、これを上げるための授業であったりとか模擬試験とかをやって点数を上げたところで、本当に学力の向上につながるのかなというところの問題もあるので、やっぱりもうちょっとお互いに、議会も見える化と言っていますけれども、そういう学力向上のための施策のどんどん見える化をしていただきたいなというふうに思いました。

それと、冒頭、石川委員がおっしゃっていたように、読書に関し、活字離れとかという次元をそろそろ超えてきたのかなって。いよいよ本当に本格的に、私たちは考えていかなければ大変なことになるんじゃないかなって、私も、この間の「クローズアップ現代」でしたっけ、見させていただいて、危機感を感じました。となれば、本市の、例えば、きょう、新聞社の方が傍聴に入られているから言うわけではないんですけども、新聞の購読率と学力の相関関係であったりとか、いろんなこともこれから細かく分析していった上で、本当に大切な読書というものをどうやって子供たちにしていっていただくとか、そういうことも、従来やもっているんですけど、それだけではなかなか届かないというところも出てきているのかなというのもあるので、考えていかなきゃいけないのかなと思いながらお伺いをさせていただきました。

ほか、質疑とか意見とか、ほかの委員、ございますでしょうか。

(なし)

## ○ 中川雅晶委員長

なければ、この程度にとどめさせていただきたいと思いますので、以上で公開の部分の教育委員会の報告は終わらせていただきます。

これより学校別の報告をいただきますので、インターネットをとめていただいて。済みません、傍聴の方、申しわけないです。

11:51 休憩

---

12:23 再開

○ 中川雅晶委員長

それでは、委員の皆様はこのまま、もうしばらくお待ちください。

まず、議会報告会、シティ・ミーティングについてであります。来年の1月8日木曜日18時30分から20時40分で、会場は桜地区市民センターです。集合時間は18時とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

シティ・ミーティングのテーマですが、一応、案として、「子どもたちにとって最善の教育環境とは?」、副題というか、学校・学級の規模ほか、これでどうでしょうか。

○ 諸岡 覚委員

そこに猿対策を入れてもらって……。

○ 中川雅晶委員長

猿対策は別の所管でやってください。

○ 石川勝彦委員

サブタイトルは外しておいて、出てきたらそれなりの対応をするというほうが……。

○ 中川雅晶委員長

サブタイトル、外したほうがいいですか。

○ 石川勝彦委員

刺激を与える、諸岡委員、先日から言っているように、やっぱり本当は本音としては入っていないかんけれども、議会として出していくというのはいかがかなという感じですね。

○ 中川雅晶委員長

議会として規模、合併ですよとかというような話は持っていないので、そうではないと思うんですけど、ただ……。

○ 石川勝彦委員

子供たちの教育の、いわゆる単年度学級とか、そういう極端なことが出てくると、今の資料を見ても、やっぱり単年度学級のクラスというのは物すごい成績が悪い、全般的にね。ちょっと伸びていない。伸びる可能性が全然ない。だから、そういう状態になってくる可能性だってあるので、その辺のところまで聞かれたら、もう答えていかなしようながないね。

○ 中川雅晶委員長

それでも、「子どもたちにとって最善の教育環境とは？」となると、これまた広い。いろんなことがあるので。「ほか」と入れたのは、これに限定することじゃなくて、この辺を中心にしてというようなニュアンスで入れたんですけど。あと、資料づくりのこともあったので、どうしようかなって。

ほか、ご意見ありませんか。

○ 石川勝彦委員

資料によるな。資料によって、資料に基づいて質問してくるよね。

○ 中川雅晶委員長

そうですね。

○ 石川勝彦委員

だから、資料を広げると大変なことになるし、資料を縮めてもいかんしね。

○ 諸岡 覚委員

例えば、委員長のお考えやと、今回どうしても学校規模を触りたいわけですか。例えば、教育民生常任委員会の管轄なら、地域福祉とか、そういうことでも本来ええわけで、教育からはぼんと外しちゃってもええわけやけれども、委員長的には、やっぱり学校規模をど

うしてもやりたい。

○ 中川雅晶委員長

それは、きのう話したとおり、別にこれを必ずしもというわけではないんですけど、もう時間がない関係の中で、今、所管事務調査も取りかかって、それから、この後またちょっと皆さんにお伺いさせていただこうと思ったんですけども、学校現場とか保護者とかに聴取しに行こうとかということをする中において、せっかくのシティ・ミーティングなので、有効利用したらどうかなというところで提案したというのがきのうの話で。

○ 石川勝彦委員

諸岡さん、恐らく、桜地区、4分の3で高齢化率が、がっががと上がっていくのね。だから、こういう問題をやっぱり直近の問題としてね。

○ 中川雅晶委員長

いや、僕、大きい問題だと思います。

○ 石川勝彦委員

取り組んでいく必要があるような感じが、そういうふうに私はとったんやけどさ。

○ 中川雅晶委員長

今、介護保険事業計画も策定しているので、そこの部分も本当は重要やと僕は思うんですけども、ただ、ごくわずかな時間でそこをやると、それも前々回ぐらいに地域包括ケアシステムについてはちょっとやっていますので、という部分もあるので、どうかなと。

○ 豊田政典委員

前に諸岡委員がいないときに、学校規模適正化については今年度残った時間で温めようというところまで決まったんですね。その一環として、時間も日にちもとりにくい中で今回それをやったらどうかというのが、おとといの話ですな。桜地区には行くけれども、我々は桜地区の話をしに行くわけではないし、全市的なオール四日市の話をするわけじゃないですか、質問は出るかもしれないけど。それについて、一般論として市民の皆さんの

意見を聞く機会だという趣旨なので、そんなにおそれることはないんじゃないですか。

○ 諸岡 党委員

いや、私も別にそれであかんとかいうつもりは全くない。ただ、ちょっと言葉を気をつけておかんと、大騒ぎになる可能性があるでという、そこだけちょっと皆さん。

○ 豊田政典委員

委員長案ぐらいに絞り込まないと、学習環境では余りにも広過ぎるので、まさに狙いが学校規模であれば、それを明確に打ち出しておいてもらったほうがいい。

○ 中川雅晶委員長

学習環境も、連動はしてくると思うんですけど。

○ 川村高司副委員長

ともすると、市民の人って、私ら議会、議員と対峙しているように受けとめている傾向があるのではないかというので、トラブルというか、議論の方向が。そうじゃなしに、私らは本当に民意を代弁して理事者側と対峙していくんだよという、その基本のところをやらんと、私らが意識を持って、この学校規模をどうかしようと企んでいるわけではないので、あくまでも理事者……。

○ 諸岡 党委員

市民の人は、議会が来るのと行政が来るのと一緒に思っているというところの……。

○ 石川勝彦委員

一緒のものやと思っている。

○ 川村高司副委員長

一緒に思っているというところの形で、どんとこのテーマってやると、変な対峙関係のようになるので、その辺の前置きの説明をきちっと、あと樋口委員にお願いして……。

(発言する者あり)

○ 川村高司副委員長

その辺、だから、皆さんと一緒にミーティングなんですよというのをわかってもらえれば、ちょっとお声を聞かせてくださいねという……。

○ 石川勝彦委員

会場が、向かい合っておるでしょう。

○ 中川雅晶委員長

円にする。

○ 石川勝彦委員

コ型にするとか、そういう形にしたほうがええでしょうな。

○ 中川雅晶委員長

そうですね、そういうことも。おっしゃるとおりね。

○ 石川勝彦委員

今までずっとそのままできたけどね。前へひな壇に並んでおって、こっちとこっちの人、やっぱりそれは、理事者が来たみたいな感じがするわな。

○ 中川雅晶委員長

わかりました。それは工夫させていただきますわ。

○ 小川政人委員

どっちみち代弁者、理事者の代弁しておるみたいになってしまうんやわな、聞かれると。こういう状況でこうなっていますって、ふだん聞いているもんやで、つい。私は違うけどとか言えへんもんな。

○ 中川雅晶委員長

特に、議会報告会は、どっちかといったらそういう感じになってしまうので、その流れでシティ・ミーティングですから、どうしてもそれを引きずってしまうという。

○ 石川勝彦委員

ごろっと180度回転するという。あと、当日の司会者、樋口委員の双肩にかかっていますね。今回、ころっと変えましょうに。

(発言する者あり)

○ 中川雅晶委員長

じゃ、席の並べ方とか、そういう司会者からの議会のスタンスとかというところのレクチャーの工夫をしていただいて。タイトル、どうですかね。いいですかね。

○ 石川勝彦委員

あと、資料を上手につくってもらってね。

○ 中川雅晶委員長

そうですね。資料、ちょっとバランスよく、こればかりじゃなくて、バランスよくつくらせていただくというところで、そういう形で、なるべくそんなふうにとらわれないように、これから行政と対峙していく中で、皆さんの意見を聞いていきたいというスタンスでシティ・ミーティングを取り計らいたいと思いますので、「子どもたちにとって最善の教育環境とは？ 学校・学級の規模ほか」ということでさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。

それから、休会中の所管事務調査についてですが、小川委員から提案のあった指定管理者四日市市歯科医療センターの業務、支出の調査——これは仮のタイトルですけれども——については、日程を調整させていただくと、1月21日の午前、午後、ないしは1月22日の午前、このあたりなんですけど、皆さん、ご都合のほう、どうでしょうかね。

○ 諸岡 覚委員

もう一回ちょっといい。

○ 中川雅晶委員長

1月21日水曜日の午前、午後、1月22日の午前。

○ 石川勝彦委員

私、両方ともいません。

○ 中川雅晶委員長

監査です。

○ 石川勝彦委員

はい。

○ 中川雅晶委員長

監査ですか。

○ 石川勝彦委員

もう一つは、大阪のほうへ出かけています。

○ 中川雅晶委員長

22日のほう。

○ 石川勝彦委員

22日は監査委員会議があります。

○ 中川雅晶委員長

監査委員会議、それなら野呂委員もだめですよ。

○ 石川勝彦委員

昼からだめです。午前中はいいい。

○ 中川雅晶委員長

22日は午前中ですわ。

○ 石川勝彦委員

午前中はいいいです。

○ 中川雅晶委員長

いいです、オーケーですね。じゃ、1月22日午前中でいいですかね。

○ 諸岡 党委員

はい。

○ 中川雅晶委員長

じゃ、第1回目、小川委員の指定管理者の件は、1月22日午前10時からということにさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それと、先ほどもあった小学校の大規模校、小規模校、それから統廃合した小学校、1校ずつぐらいを選定して、議会から出かけて行って、教職員並びに保護者と直接意見交換するというのをさせていただきたいと思うんですけども、その日程が、1月29日、1月30日、2月4日、2月6日、2月9日、このあたり、2月9日はちなみに2月定例会議会の委員会の議案聴取会の予定になっていまして、その終了後という形ですが、というところら辺しかなかなかとれないというところで、それと、あと、委員会の開催として出かけていくとなれば、委員会の定足数というのが必要で、5名以上じゃないと委員会として成立しませんので、きのうもちょっとちらっと言いましたけど、例えば人数を少なくして分けてやる委員派遣という形になると、これはなかなかちょっといろいろ大変かなというか、時節柄、選挙が近いものですので、あらぬ誤解を受ける可能性もあるので、できれば委員会としてさせていただきたいと思っていますので。

○ 小川政人委員

そんなんでも定足数があるの。

○ 中川雅晶委員長

委員会の開催はそうですね。定足数に満たない場合は委員派遣、議決は必要なくて、委員派遣というのは、議長の許可をもらってできるみたいなんですけど、そうすると、どうしても行く学校によっては、3人、何か変な誤解を受けたら困るので、そういうのはないように、委員会としてやったほうがいいかなと。

○ 樋口博己委員

夜間。

○ 中川雅晶委員長

それもちょっと相手との調整なんですけど、夜間も想定していただきたいんです。開催時間とか、それから大規模校はどこどこ、小規模校どこどこ、統廃合の学校どこどこというのを、委員長、副委員長にちょっとご一任いただいて、調整させていただきたいと思うんですが、その辺もいかがでしょうかね。

○ 諸岡 党委員

一任をするんですけど、早目に日程を確定していただければありがたいです。

○ 中川雅晶委員長

そうですね。日程、例えば1月29日、1月30日、2月4日、2月6日、2月9日で絶対だめなところってあります。

○ 石川勝彦委員

午前中。

○ 中川雅晶委員長

時間はちょっとわからないです。

○ 小川政人委員

それで、行って、選挙前に要望会みたいになってしまうと、分割してくれよとか、それこそバス通学をずっと続けてくれとか、そういうのになりかねんで、こんなこと。バスでもそうやけど、それはいろんな要望があると思うでさ。そういうことをやると、かえって何か俺らが御用聞きに行くみたいな感じになってしまうて、ちょっとまずいことないかな。

○ 石川勝彦委員

学校側のほうも、無理が出てくるかもしれんね。

○ 中川雅晶委員長

無理というのは。

○ 石川勝彦委員

一つの小学校とか中学校に行くんでしょう。その学校の受け入れが難しいと思う。

○ 中川雅晶委員長

それも調整しなきゃいけないね。

○ 石川勝彦委員

だから、この辺が難しいと思うのね。午前中がええとか、午後とかって、勝手にこちらが選ぶわけにいかないですから。

○ 中川雅晶委員長

時間は、申しわけない、夜になる可能性もあるので。

要望会になるべくしないような形で設定をさせていただきたいと思いますし、わざわざピンポイントで言うというのは、要望会にしないという意図が多分にあるので。

○ 樋口博己委員

大規模校、小規模校、統廃合校という話なんですけど、先方のご都合もあるので、今年度、例えば、大規模校なのかその辺はわからんのですけど、1校、そういう場を持ってみ

るというのも一つの考え方なんじゃないでしょうかね。

○ 中川雅晶委員長

ただ、1校だけやったら、もう不完全なものに終わってしまうと思いますので、何の検証もできないですね、結局。

○ 小川政人委員

でも、委員長、そんなに頑張り過ぎると、かえって重荷になるで。そこは余り……。

○ 石川勝彦委員

行くだけで終わっちゃうね。行くだけではなく、まとめることも……。

○ 小川政人委員

だから、そこを考えやんと。気持ちはわかるけど。

○ 豊田政典委員

前の委員会ではほぼ決まったんです。欠席された方もおったけど。委員長が頑張るんじゃないで、俺らが頑張る。

○ 小川政人委員

何もかもしょうと思うと、ゆっくりそんな、方向性はそれでいいんやろうと思うけど、もうあと残された3カ月しか4カ月しかあらへんの全部というのはなかなかえらいと思うけどな。多分、ならんと思うけど、要望会になるんやろうと思う。

○ 中川雅晶委員長

そうさせないように何とか努力をさせていただきます。

ちょっと日程について、先方の日程もありますので、言われたように、三つともできるかどうかというのは難しいかもしれないですけども、少なくとも、大規模校と小規模校と2カ所ぐらいはということで努力をさせていただきたいと。先方との調整もあるので、議会と先方の調整が合わなければ、なかなか難しいかもしれませんが、何とか努力させて

いただきたいというふうに思います。最低ここぐらいまではやって、報告を出したい。次年度につなげるならつなげていきたいという思いがあるので、そこだけ何とかご協力いただけますかね。

これね、出席いただかなきゃいけないんですよ。

○ 小川政人委員

出席は、あいておったらするでさ、協力するでさ。

○ 中川雅晶委員長

これ、5人に満たなかったら、もうしゃれにならへん話なので。

○ 諸岡 覚委員

ちゃんと行けたら行きます。

○ 中川雅晶委員長

頼みますよ。

○ 樋口博己委員

先方との調整ができて、ふたあけたら、いや、だめなんだとなるとね。

○ 中川雅晶委員長

一番困るのが、4人とかになったときに困るわけですわ。

○ 小川政人委員

そういうときは、委員会という資格で行かなええやんな。委員という資格で行けば、それで構わへんのやろう。話を聞くだけなんやから、何か物を決めるわけじゃないで。

○ 中川雅晶委員長

委員会として出ていくので、途中で委員会じゃないですよとなれば、委員会を開けなくなるんです。そうでなければ、委員派遣にしましなきゃいけないです、最初から。

それはやめておいて、委員会としてやらせていただきます。なるべくじゃなくて、ぜひ行かさせていただきますように、万障繰り合わせの上、忙しい時期だとは十分存じ上げておりますが、何とぞよろしく願いをいたします。

さっき言った1月29日、30日、2月4日、2月6日、2月9日あたりで調整させていただきますので、よろしく願いいたします。もうこれ以外ないです。あとはもう2月定例会議会が入っていますので、もうあとは無理なので、ここで調整できんかったら……。

#### ○ 樋口博己委員

できれば、例えばAという学校に対して、この日時でお願いしますという狙い撃ちではなくて、二つぐらいの手があると、5名以上は確保できるのかなというふうに思いますので、そういう調整の努力をお願いできればと思います。

#### ○ 小川政人委員

ちょっとさっきの日程を書いておいて回してくれやん。バツか丸かわからん、僕、手帳も持っていないで。

#### ○ 中川雅晶委員長

じゃ、もう一回ちょっと日程のところを、午前、午後、夜も含めて可能なところを印しただいて、先方と調整をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

以上で全ての事項が終了しましたので、委員会を閉じさせていただきます。長時間、本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

12:43 閉議